

第55回 石川県児童・生徒科学作品コンクール

優 秀 作 品 展

2011

石川県教育センター会場

平成23年10月22日（土） 13:30～17:00

23日（日） 10:00～15:00

七尾地区会場 [七尾市立山王小学校]

平成23年11月3日（木） 9:00～16:00

金沢地区会場 [金沢市立玉川こども図書館]

平成23年11月5日（土）～11月13日（日）

10:00～17:00（月曜は休館）

主 催 石川県科学教育振興委員会

共 催 石川県教育委員会 石川県科学教育振興会

後 援 石川県理科教育研究協議会 読売新聞北陸支社

# 入賞作品一覧表

## ◆ 石川県知事賞

### 小学校の部

◎ 能登の鳴き砂すごいぞ!! 金沢市立田上小学校 4年 長谷川 愛

### 中学校の部

◎ ウユニ塩原の塩の結晶をつくろう 加賀市立東和中学校 科学部  
1年 谷 瑠人  
1年 土生 晃央

## ◆ 石川県議会議長賞

### 小学校の部

◎ 朝顔の研究2011 千代女の見たあさがお 金沢市立安原小学校 6年 坂本 純哉  
3年 坂本友理香

### 中学校の部

◎ 接ぎ木の研究 その2 七尾市立七尾東部中学校 2年 長崎 文香

## ◆ 石川県教育委員会賞

### 小学校の部

◎ 見つけたよ!! 砂と水のふしぎなうごき 金沢市立鞍月小学校 2年 朝田 太陽

### 中学校の部

◎ 落下の速さを調べる II 金沢市立高尾台中学校 3年 秦 健太

## ◆ 石川県科学教育振興会長賞

### 小学校の部

◎ アリの研究Ⅲ アリの協力 金沢大学人間社会学域 4年 伊藤 知紘  
学校教育学類附属小学校

### 中学校の部

○ 泡の研究 加賀市立山中中学校 3年 下出 大貴

※ 小学校の部における◎印の作品は、県代表として第48回全国児童才能開発コンテストに出品する。

中学校の部における◎印の作品は、日本学生科学賞石川県審査会の最優秀作品であり、県代表として第55回日本学生科学賞中央審査に出品する。中学校の部における○印の作品は、日本学生科学賞石川県審査会の優秀作品である。

## ◆ 優 秀 賞

### 小学校の部

ザリガニのふしぎ えさのたべかたのひみつ	金沢市立南小立野小学校	1年	戸田 詩音
カマキリのけんきゅう②	小松市立稚松小学校	2年	西出 紡
ダンゴムシのひみつ	津幡町立萩野台小学校	2年	森 溪
くらべてみよう!ヒマワリの花 ~追肥でかわる花のようす~	金沢市立弥生小学校	2年	梶山 はな
カブトムシはチカラムシ!?	金沢市立小坂小学校	3年	矢田 悠馬
およげ!こいのぼりくん	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	3年	西澤 諒
1年をとおしてのスナガニのかんさつと実験・パート4	能美市立浜小学校	4年	米田 早希
おじぎ草のぺこりんこ Part2	金沢市立泉野小学校	4年	岡部 貴弥
365日カブトムシと遊ぶ方法	金沢市立弥生小学校	4年	藤溪 志帆
石川県の海岸における正負のダイラタンシー	金沢市立十一屋小学校	5年	湊 琴音
風車を使って回転行灯の仕組みを知ろう!!	金沢市立森山町小学校	5年	保科 美怜
エアコンなしのすずしい家をつくる実験 ~今日もどこかでエコたんてい!~	志賀町立志加浦小学校	5年	竹視 亜依 3年 竹視 早紀
水のとける速さ パート3 ~水と液体の不思議な関係~	かほく市立宇ノ気小学校	6年	中村 未奈
オオバコずもうの研究	七尾市立徳田小学校	6年	鷹合 史乃・熊下依久美

### 中学校の部

○ 水玉の不思議Ⅱ 滑り落ちる水玉 =質量と速さの関係を調べる=	小松市立安宅中学校	3年	谷内 美月
万華鏡の規則性	小松市立安宅中学校	3年	松田 絵美
○ ガラス作りに挑戦!!	加賀市立東和中学校	科学部	
		3年	三ツ井海斗・南田 拓也
		1年	安田 翔万
紫外線を含む太陽光の影響について ~バナナの褐変から~	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	1年	福田 瑞穂
○ 続・薄茶の泡について ~お湯の温度と薄茶の泡立ちについて~	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	2年	佐波 佑紀
紅茶の色の变化にせまる!	金沢市立泉中学校	3年	横山 哲也
○ 光る海藻の不思議にせまる	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	1年	黒川 怜弥
○ 植物と水の謎にせまる 3	小松市立丸内中学校	2年	行松花奈子
○ オオコオイムシの観察・実験 partⅡ	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	2年	清水 隆史
浅野川 水質調査 Ⅱ	金沢市立浅野川中学校	3年	石黒 純

## ◆ 優 良 賞

### 小学校の部

あさがおのかんさつ	加賀市立三木小学校	1年	角谷 実南
ふしぎなおじぎそう	加賀市立勅使小学校	1年	上村 小雪
ハトのエサ そだてたよ	小松市立芦城小学校	1年	広岡 理恵
あおいろのあさがお ずっとあおいろだいさくせん	金沢市立泉野小学校	1年	川尻 峻幹
とのさまばったのかんさつ	内灘町立大根布小学校	1年	大西 琉聖
カマキリのかんさつ	小松市立東陵小学校	2年	村上 大地

いろいろな紙のしみこみかた	能美市立寺井小学校	2年	田上 陽菜
いえのまわりのしょくぶつしらべ	能美市立寺井小学校	2年	北本 夏帆
赤いトマト 黄色いトマト どっちがあまいかな？	野々市町立御園小学校	2年	阿部 美海
大きくなれ！！ゴーヤくん	金沢市立長坂台小学校	2年	宮村 蒼弥
今年も来たよ！青虫くん！	金沢市立南小立野小学校	2年	西尾 朋人
トマトのひみつ 大はっ見！	羽咋市立羽咋小学校	2年	松中 愛
ミミズの研究	加賀市立錦城小学校	3年	江守真由子
太陽ねつでクッキング！やってみよう！！できるかな？	野々市町立御園小学校	3年	阿部 天海
石けんのあわはどうしてできるのかな	野々市町立富陽小学校	3年	丸田ほのか
さる丸神社のせみのぬけがら研究2011	金沢市立菊川町小学校	3年	勢登 翔吾
ありさんのおはなしきいたかな？パート2 ーありの活動と気おんのかんけいー	金沢市立米丸小学校	3年	高田 真帆・高田 夏帆
空のはてまでのびてT ～竹のかんさつ～	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	3年	石丸 美汐
どんなふくがすずしいかな？パート2 ～風のパワーをさぐる～	かほく市立宇ノ気小学校	3年	中村 幸誠
がんばれ！こよりパワー	加賀市立山中小学校	4年 2年	河嶋 涉吾 河嶋 洸哉
消える！！ガムのひみつ？	加賀市立菅谷小学校	4年	竹中 彩月
ヤマユガのひみつ②	小松市立能美小学校	4年	山岸 万恵
あさがおの研究 ー東西南北の対決 パートⅡー	白山市立松任小学校	4年	西 紅羽
放しやのうおせん水をきれいな水に変える研究	金沢市立千坂小学校	4年	小藤さくら
カワニナの研究 パート3	金沢市立南小立野小学校	4年	下出 昇英
ありじごくパート2	能登町立柳田小学校	4年	金森 一倫
大聖寺川の水質調査	加賀市立山中小学校	5年	寺田 隼大
シャボン玉の不思議をさぐる！パート4 シャボン玉まくを行き来するガス 二酸化炭素のなぞにせまる	川北町立橋小学校	5年	村本 瑞樹
夏をすずしく過ごす方法 part 4 風通しのメカニズムを解明する！！	野々市町立御園小学校	5年	古村 直輝
サビはどうしてできるの？ ～サビを防ぐには…？～	白山市立東明小学校	5年	石本 唯
長く遊べるヘビゴマを作ろう！ パートⅢ	金沢市立三馬小学校	5年	日吉 美智
どうして筆で字が書けるのか	金沢市立南小立野小学校	5年	北村佳のん
納豆菌の基礎研究 ～納豆菌を知ろう～	金沢市立富樫小学校	5年	浦本 雄史
メダカの生育環境 水質と水流 ～発見！メダカの学校のヒミツ～	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	5年	福田 彩香
植物と土の種類・塩水の関係	かほく市立高松小学校	5年	稲垣 茜里
クロメダカを増やそう！！作戦	加賀市立山代小学校	6年	橋本 花鈴
紫外線の研究	小松市立芦城小学校	6年	中田 朋宏
風はエネルギー危機を救えるか	小松市立今江小学校	6年	竹本 哲也
草木染めに挑戦 パート5	小松市立日末小学校	6年	宮埜 頌子
1番涼しい扇風機を作ろう	野々市町立菅原小学校	6年	田村 早絵
溶ける・溶けないのひみつの研究	金沢市立四十万小学校	6年	谷本 大地
家の庭の生き物調べ パート6	金沢市立中央小学校	6年	花山 佳子
鳥の研究 パート4	金沢市立緑小学校	6年	五反田奈美
ダイラタント流体はしょうげきを吸収できるか	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	6年	西澤 弘晃
紫外線が身の回りの物に与える影響について	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属小学校	6年	松原 優子

波の力で発電しよう ～リサイクルした物を使って～	羽咋市立瑞穂小学校	6年	福井 力央
「腐る」について調べよう	七尾市立徳田小学校	6年	沖 萌美・佐々木彩乃
液状化現象をさぐる	能登町立柳田小学校	6年	広沢 采奈

## 中学校の部

打ち水の効果にせまる	小松市立国府中学校	1年	中川 雅喜
夏を涼しく過ごすための研究	金沢市立長田中学校	1年	田口 晃宇
風力発電における発電量の研究	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	1年	山本 侑樹
力の伝わり方	小松市立芦城中学校	2年	越井 美紗
衝突球の実験	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	2年	山本 千夏
表面張力の測定	金沢市立高尾台中学校	3年	長尾 矩行
ハニカム構造は本当に強度が強いのか	金沢市立紫錦台中学校	3年	松崎 聡
飛行機の研究	珠洲市立宝立中学校	3年	渡合 一央・新田 誠 後坊 崇徳
酸性雨について	津幡町立津幡南中学校	1年	鈴木亜紗実
果物の変色について	志賀町立富来中学校	1年	富森 観空
錆	珠洲市立宝立中学校	2年	芝下 勇輝
光の色による植物の成長及び光合成量の違い	川北町立川北中学校	1年	小林 朋佳
胞子で増える植物、海そう、水草に気孔はあるのか？	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	1年	角永 采里
光と植物の友好条約 Part 4 -植物と環境汚染の関係-	小松市立丸内中学校	3年	行松妃奈子
タイのタイとは何なのか？	志賀町立志賀中学校	3年	横谷祐貴子
ウキクサの研究 結果と考察	珠洲市立宝立中学校	3年	道端 建太・石井 琢也 高山 千里・谷口 真子
アスファルトと土 地球温暖化への影響は？ 5年目 地球が涼しくなるアスファルト作りの工夫IV	金沢大学人間社会学域 学校教育学類附属中学校	3年	ラティフ亜門

## 高等学校の部

白山高山帯・亜高山帯における低地性植物(外来植物)の 生育状況について2011 ～白山南竜ヶ馬場および室堂に おける雑草性植物の侵入状況～	石川県立金沢桜丘高等学校	アクティブサイエンス部	
レインボー植物をつくろう	石川県立小松高等学校	3年	山野下莉那・神保 晃洋

## ◆ 佳 良 賞

### 小学校の部

けしゴムについて	野々市町立館野小学校	1年	河岸 賢吾
はつかだいこんのかんさつにつき	白山市立松任小学校	1年	高森 有佐
なにがうくのかな？	金沢市立大浦小学校	1年	松本 彩
カブトムシのせいちょうきろく	宝達志水町立志雄小学校	1年	柳瀬 輝翔
せみのぬけがらがあるところ	珠洲市立若山小学校	1年	松田 光莉
太よのねつをつかったけんきゅう ソーラークッキング	能美市立辰口中央小学校	2年	小山 大貴
糸でんわであそぼう	白山市立松南小学校	2年	村上 由樹
スイカのたねの数しらべ	白山市立白嶺小学校	2年	益山 紗智

おうちのゴミをリサイクル ～ダンボールコンポスト～	中能登町立鹿西小学校	2年	土谷 尊斗
はつか大こんのかんさつにつき	珠洲市立飯田小学校	2年	青木 伶奈
川の生きものと水しつのかんけいしらべ	小松市立東陵小学校	3年	東田 侑士
かげの研究	羽咋市立羽咋小学校	3年	深見こころ
ウィルソンは、なぜ白いさとうをえらんだか	珠洲市立上戸小学校	3年	光真 有里
ハチの研究	珠洲市立宝立小学校	3年	浜野 通信
開発される場所にはどんな鳥がいるかな? 開発前にしらべてみよう	小松市立苗代小学校	4年	坂本 羽姫
部屋をすずしくする方法	白山市立松南小学校	4年	堀井 晶馨
水が持ち上がるのはなぜ?	白山市立美川小学校	4年	南 佑羽
アゲハのさなぎのひみつ パートII	かほく市立外日角小学校	4年	金子綜一郎
水のひみつ	宝達志水町立志雄小学校	4年	松本 龍樹
なぜ1円玉は水にうくのか?	中能登町立越路小学校	4年	谷口和香奈
電池って不思議!!	中能登町立滝尾小学校	4年	大西 直子
水時計	能登町立宇出津小学校	4年	数馬 優花
塩害	小松市立木場小学校	5年	上田らら花
水の不思議な力	能美市立宮竹小学校	5年	徳川 瀬奈
1番長持ちするのは?!	野々市町立館野小学校	5年	野口智香子
太陽電池の研究 ～太陽の光で大きな電気をおこす条件～	宝達志水町立志雄小学校	5年	岡田 海音
オジギ草の不思議	七尾市立德田小学校	5年	大窪 未来
ユリの研究	中能登町立越路小学校	5年	下川 智穂
紙の折り方と強さの研究	野々市町立富陽小学校	6年	森田 千晴
土の酸性度	内灘町立大根布小学校	6年	本出 咲葉
液状化現象の秘密	七尾市立田鶴浜小学校	6年	清水 宏記
わたしの身近な土地のつくりと変化を調べる 2007年地震で崩れたがけから貝の化石発見!!	輪島市立河井小学校	6年	柿 瑞穂
エジソン電球の実験	珠洲市立みさき小学校	6年	山形 陽香
地表を循環する二酸化炭素	珠洲市立正院小学校	6年	向 渚紗

## 中学校の部

ペットボトル風力発電装置の作成と実験	能美市立寺井中学校	1年	藤田峻太郎
紫外線防止に有力なものは?	白山市立美川中学校	1年	松田 遥奈
風力発電	白山市立北辰中学校	1年	杉本 駿菜
エコ住宅と断熱材の関係	かほく市立高松中学校	1年	越村 流威
長さや強さの研究	津幡町立津幡中学校	1年	辻本宗一郎
ボールのはね方の研究	宝達志水町立押水中学校	1年	伊東 歩夢・宮城 昌弥
光電池の科学 ソーラーエネルギーの利用	羽咋市立邑知中学校	2年	清水 亮裕
電気を作ってテレビを見る実験	志賀町立志賀中学校	2年	瀧川 遼真
手作りカイロ	かほく市立河北台中学校	1年	一二三彩子
汚れた水をきれいにできるか!	津幡町立津幡南中学校	1年	大嶺 奈那
消臭の実験	金沢市立野田中学校	3年	水野 杏里
身近にあるものの中で花が長もちする液はどれか	白山市立松任中学校	1年	平田 優衣
シダ植物の胞子を育ててみよう!!	七尾市立中島中学校	1年	赤坂 裕美
蜘蛛の研究パート2	珠洲市立宝立中学校	2年	濱野 友寛
植物の成長にとって必要な光の色はなにか。	白山市立美川中学校	3年	松田 聡典
土の浄化力	内灘町立内灘中学校	1年	中嶋 葵

## □ 入賞作品数

	小学校	中学校	高等学校	計
石川県知事賞	1	1	0	2
石川県議会議長賞	1	1	0	2
石川県教育委員会賞	1	1	0	2
石川県科学教育振興会長賞	1	1	0	2
優秀賞	14	10	0	24
優良賞	48	17	2	67
佳良賞	34	16	0	50
計	100	47	2	149

## 県審査の講評

### 1 小学校

低学年では、全体の2/3が身近な植物や生き物を素材にしていた。愛着を持って育てる中で疑問が生まれ、観察を通して興味関心が高まっていく作品が多かった。1年生の作品「ザリガニのふしぎ えさのたべかたのひみつ」は、ザリガニがにおいて餌に気付き、好きな餌を隠しても見つけられることを調べた。1つの発見から疑問が生まれ、次の実験へと発展している点が良い。2年生の作品「見つけたよ!! 砂と水のふしぎなうごき」は、毎日使っている砂時計をきっかけに、砂や水の落ち方に興味を持ち取り組んだ研究である。自作の砂時計・水時計で、様々な条件のもと根気よく何度も実験を繰り返している。速さだけでなく落ちる様子をしっかりと観察し記録している点が良い。低学年では、観察日記形式の作品が多くなりがちだが、単に事実を記録するだけでなく生まれた疑問に対して明確な視点を持ち、焦点化した観察実験を行うと深まりのある研究となる。

中学年は、身の回りの生物や現象から着想した研究、今日的な課題に着目した研究など広い分野からの作品が多かった。3年生の作品「およげ! こいのぼりくん」は、鯉のぼりがそよ風の中でも泳いでいることに疑問を持ち、その材質・形状・風力などを変えて泳ぎ方を調べた作品である。自分で実験装置や実験用鯉のぼりを作り、ねばり強く取り組んだ。4年生の作品「能登の鳴き砂すごいぞ!!」は、鳴き砂が鳴く理由を知りたいと思い研究した力作である。採取した砂の成分や状態を調べ、鳴き方に関係する石英をつきとめた。さらに汚れて鳴かなくなった砂から異物を取り除き再度鳴かせる実験では、研究を通して石川の自然を愛する気持ちが伝わってくる。課題意識をはっきりと持ってねばり強く取り組む姿勢が素晴らしい。中学年は、科

学的なものの方や考え方を養う上で、理科の問題解決の過程を通して研究を行うことが大切である。問題に対して自分なりの根拠を持って予想を立て実験し、出てきた結果から何が言えるのかを考察する。はっきりしたこととはっきりしないことを明確にすることが大事である。そのために1回の実験で満足せずに複数回行い、再現性や客観性を高めてほしい。

高学年では、継続研究や参考資料からのヒントをもとに取り組んだ研究が多かった。震災の影響からかエネルギーや節電などをテーマにした研究が目立った。5年生の「石川県の海岸における正負のダイラタンシー」は、砂の性質に着目した研究である。ダイラタンシーとは砂などに力を加えると硬くなる現象で、千里浜海岸を車で走れるのはそのためである。震災報道で知った液状化現象と比較しながら、採取した砂について綿密にデータをとり調べている。6年の作品「朝顔の研究2011千代女の見たあさがお」は、千代女の句から抱いた疑問を科学的に解明しようと、仮説を立て実験を考え取り組んだ点が評価できる。研究のまとめ方がわかりやすく、図や表も効果的であった。高学年では、明確なねらいと見通しを持って、推論しながら進めることが質の高い研究につながる。独りよがりではなく、読み手を納得させる論の進め方や表現方法を意識してほしい。

審査を終え、以下の3点に留意してほしい。①写真を多用する作品があるが、生物分野ではスケッチで生まれる発見がある。スケッチか写真かよく見極めて使ってほしい。②参考文献の追実験で終わっている研究が見られる。自分のめあてを見つけ一歩上の研究をめざしてほしい。③大人の支援の在り方について、子どもの研究を支えるものであって、大人の手が明らかに見える作品や子どもが理解できているのかと疑問に思われる作品は好ましくない。

## 2 中学校

**物理分野**では、今年は21作品が集まり、例年同様、実験の装置や方法を工夫した作品が多く見られた。中でも「ユニ塩原の塩の結晶をつくろう」は、自然界でできる特殊な形状の塩の結晶を実験室で作ることに挑戦した。丁寧な資料の調査や実験により、特徴的な四角錐の結晶を不完全ながらも作ることに成功しているなど、教科書やテレビ番組での興味をそのままにせず作品に仕上げている点がすばらしい。「落下の速さを調べるⅡ」は物体の落下に関する継続研究であり、多くの地道な実験により、落下の様子が変化する境界を見出している。「泡の研究」は独自の工夫を凝らした実験により、泡のなぞに迫ろうと取り組んでいる点が良い。

独自性のある作品のテーマ選びは大変だと思うが、日頃から何事も注意深く観察し、生じた疑問を大切にすることで調べてみたいテーマを見つけ、丁寧に実験を行うことで作品に仕上げたい。また、せっかくの作品なので、人に見てもらおうための見やすさに配慮があるとよい。

**化学分野**では、10作品の審査を行った。日常生活の疑問から、水の浄化・酸性雨などの環境まで多岐にわたるテーマであった。中でも、「ガラス作りに挑戦!!」は、部活動の取り組みとして、七色のガラス作りを丁寧に実験してある。部員間のコミュニケーションから得られる課題等も示されていればなおよかった。「紫外線を含む太陽光の影響について」は、レポートとして書式においてまとまりがある。温度による経時変化と紫外線による影響の相違点などの考察があるとよい。「続・薄茶の泡について」は、継続研究として多数の実験及び官能試験を行っており、更に客観性を持った評価方法を編み出すとよい。「紅茶の色の変化にせまる!」は、変色の原因をもう少し探究してみるとより発展的なものへと期待できるであろう。

本来研究は、仮説を立てて観察実験を行い、その結果を整理・考察することが望まれる。研究をまとめる際に、先行研究や文献をただ追試するだけでなくオリジナリティーの部分が多い。継続研究においては、前回との違いを明確にしないまま進めたものが見られたことは残念である。

**生物分野**では、継続してきたものや、夏休みを利用して集中的に取り組んだものなど期間の長短はあるが、それぞれ粘り強く取り組んだ作品が見られた。生物を研究対象とする場合は季節や個体差の問題を考える必要がある。着想や実験は面白いのに、1回の実験や1個体の結果から結論を導いている作品が見られた。データの信頼性を高めるためにも、同一条件で複数の実験を行ってほしい。「接ぎ木の研究その2」は、接いだ植物の道管がどのようにつながっていくかを地道に調べた作品である。適切な時期に、複数

個対で比較する研究手法は科学的で、評価の高かった点である。「光る海藻の不思議にせまる」は、着想が面白く研究の進め方も工夫されていた。仮説と検証実験の対応について一工夫あるとよい。「植物と水の謎にせまる3」は、大気汚染状況を独自の観点を工夫して調査しているところがよい。タイトルは研究内容が伝わるように工夫してほしい。「オオコオイムシの観察・実験 partⅡ」は、1年を通して取り組んだ努力が評価された。ただ、生命を大切にすることを観点から、状況に応じて実験条件を変更することも大切である。

**地学分野**では、本年度の作品は3点と例年に比べ少なく、残念であった。ただ、出品された2作品が継続研究で、研修に対する意気込みを感じられるものであった。

「浅野川水質調査Ⅱ」は、継続研究で、前年度の結果からの課題の追究を行った。水質調査として、バックテストだけでなく、滴定による測定やCODの測定も時間帯の変化に着目し調査した点は、高く評価できる。

全体として、丁寧に根気強く研究した作品が好感が持てた。一方、研究の目的がはっきりせず、単なる表面的な結果報告に終わり、考察にまで至っていない作品も見受けられた。毎年出品している生徒の作品は手順や方法が年々向上しているが、アイデアや方法において新鮮味に欠けやすく、さらに工夫が必要なものもあった。資料として写真を利用することはデータの客観性を高めるために有効であるが、物の形態や特徴をスケッチすることやグラフ化する方が理解しやすい場合もある。それぞれの良さをうまく生かし、まとめ方についても一層の工夫を期待したい。

## 3 高等学校

本年度は生物分野で2作品が出品された。「白山高山帯・亜高山帯における低地性植物（外来植物）の生育状況について2011」は、外来生物の問題についての実地調査報告である。部活動での取り組みで、今年で三年目となる。生態系への影響について言及するためには、長期の調査と多くのデータが大切であり、今後も継続調査が望まれる。蓄積されたデータをもとにした独自の考察や見せ方などの工夫があるとさらによい。「レインボー植物をつくろう」は、課題研究で取り組んだ研究をもとに、先輩等の先行研究からポイントを絞って実験を進めている。写真だけでなくスケッチなども用いて見せたいところを絞り込む工夫もあるとよい。

残念ながら、高校からの出品が非常に少ない。普段の学習など忙しい面もあるかもしれないが、身近な不思議への探究を少しずつでも続けてもらいたい。また、部活動の成果発表の場として、当コンクールへの出品を期待したい。